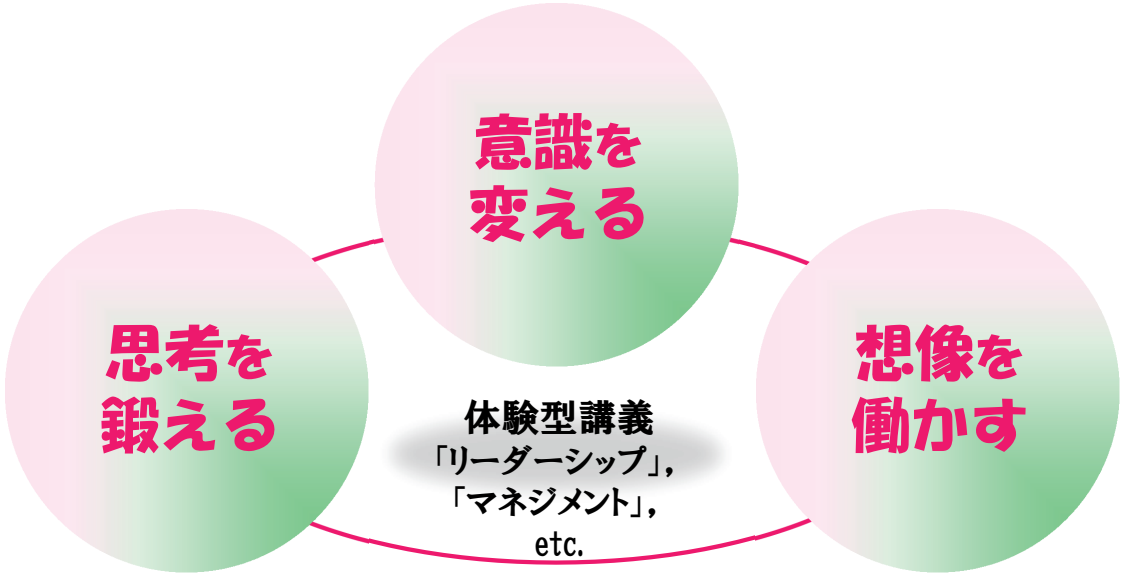
平成２６年度後期
名古屋大学大学院共通科目
授業案内

Nagoya University Graduate School Common Courses
Course Information
Fall Semester, 2014



Relationships & Comm.,
Academic Writing,
Presentation, etc.

藝術リテラシー
etc.

名古屋大学教養教育院
Institute of Liberal Arts and Sciences
Nagoya University

平成２６年度後期　授業科目一覧　Fall Semester Schedule 2014

授業科目 Course　Title	単位数 Credit	教員 Instructor	曜限 Day･Hour	講義室 Class Room	ﾍﾟｰｼﾞ Page
体験型講義「マネジメント」	2	栗本	集中	Ace Lab S	3
体験型講義「エンプロイアビリティ」	2	河野・栗本 他	月５限	情科棟１階 第２講義室	4
Career and Life Development Ⅰ	1	Go Yoshida	火２限	S11	5
Career and Life Development Ⅱ	1				
藝術リテラシー（絵画論Ⅱ）	2	小林（英）	火２限	A21	6
藝術リテラシー（音楽Ⅱ）	2	小林（聡）	月５限	国言棟４階 ﾋﾞﾃﾞｵｽﾀｼﾞｵ	7
藝術リテラシー （レクチャーコンサートⅡ）	2	白石・深堀	木５限	国言棟４階 ﾋﾞﾃﾞｵｽﾀｼﾞｵ	8

Mei-Writing

Academic Writing　Ⅱ (A)	English	2	Paul W. L. Lai	火３限 Tue. 3	C31	9
Academic Writing　Ⅱ (B)		2	Chad Nilep	水４限 Wed. 4	S13	１０
Academic Writing　Ⅱ (C)	German	2	Markus Rude	水３限 Wed. 3	C36	１１
Academic Writing　Ⅱ (D)	French	2	Nicolas Baumert	月４限 Mon. 4	S13	１２
Academic Writing　Ⅱ (E)	Chinese	2	Jian Lu	月４限 Mon. 4	S14	１３
Presentation　Ⅱ (A)	English	2	Mark Weeks	木３限 Thu. 3	A11 ~~A32~~	１４
Presentation　Ⅱ (B)		2	David Toohey	月２限 Mon. 2	ｻﾌﾞﾗﾎﾞ B	１５

申請方法　How to Apply

①電子メールによる申請 Send e-mail

・Ⅰ「体験型講義」「Career and Life Development」「藝術リテラシー」
　Ⅱ　Academic WritingⅡ(A)

受講希望クラス，学生番号，氏名，所属研究科・専攻，連絡先（電話番号，メールアドレス），受講理由を明記して１０月７日（火）１７時までに電子メールで申請
　表　題：　講義科目名
　送信先：　Ⅰの科目　kyo-kika@adm.nagoya-u.ac.jp
　　Ⅱの科目　meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

Send an e-mail by 17:00, October 7th, 2014 (Tue), providing the following information: 1) course title, 2) your ID number, 3) your name 4) your department, major, 5) your contact information (phone number, e-mail address), 6) an explanation of why you want to take this course.
　Subject: Course Title
　E-mail address: Ⅰ Workshop, Career and Life Development, Arts of Literacy　→　kyo-kika@adm.nagoya-u.ac.jp
　Ⅱ Academic WritingⅡ(A)
　→　meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

Ⅲ　Academic WritingⅡ(B)(C)(D)(E)及びAcademic Presentationに関しては、電子メールによる事前申請はなしとする。

Mei-Writing Courses（Academic WritingⅡ(B)(C)(D)(E) and Academic Presentation）　don't require preregistration by e-mail.

②第１回目授業に出席 First Lesson

・受講を希望する人は，第１回目の授業（後期授業：１０月１日（水）～）に必ず出席してください。但し，受講調整を行うこともあります。その方法については，第1回目の授業で説明します。

If you wish to take any one of the courses, please come to the first lesson (10/1-) of the course that you wish to take. However, please note that space is limited. Students will be informed whether or not they are accepted to take the course in the first lesson. Details will be announced at the first lesson.

③各研究科で履修登録 Registration

・受講を許可された人は，各研究科教務担当掛で履修登録をしてください。（登録の締切日は所属研究科担当掛に確認して下さい。）受講許可された人で，受講を取りやめる場合は必ず担当教員に連絡して下さい。

Students who are accepted are required to register for the course at the administration office of their respective graduate school.

Since the registration deadline varies from school to school, students are advised to check the deadline of their own graduate school.

Those who are accepted but decide not to take the course, please contact the course instructor as soon as possible.

■詳細につきましては，下記 URL でご覧ください。
For the detailed information, please go to the following website.
- 教養教育院 HP >> 大学院共通科目
  http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/gradschoolsubject/

[Mei-Writing Course]
- 教養教育院 HP >> Mei-Writing
  http://meiwriting.ilas.nagoya-u.ac.jp/

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期・集中	－	－

科目名 (Course Title) 体験型講義「マネジメント」
担当教員 (Instructor) 栗本 英和

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

体験型講義1「リーダシップ」と体験型講義2「マネジメント」をセットで受講することを勧める。

目的と目標 (Course Objective)

体験型講義は，研究分野の枠組を超えて求められる，リーダシップ，マネジメント，チーム・ビルディング等に関する基本概念を，体験を通して会得すると同時に，事例分析や比較分析を通して，その基本知識を体系的に学修することを目的とする。

とくに，マネジメントは抽象的な概念であるために，本質的な考え方や見方が誤認されやすく，その習得も現場での勘と経験と度胸と呼ばれるような実践型訓練に依存している。

本講義では，真の勇気と知性を備えた牽引者像の具現化と現実解を創出する資質・能力の醸成を目指すため，研究分野の枠組を超えて，求められるマネジメントとは何かを主題に，類似した概念との相互比較や事例分析から，マネジメントの概念を深掘りし，組織的活動におけるマネジメントの概念とBrainstormingによる基礎知識を習得する。

内容と計画 (Course Content)

2-1 価値創造とマネジメントに関する基本知識と基本概念を，実例から学ぶ。
〇4つの理念：価値創造，独自能力，実践コミュニティ重視，社会との調和
〇7つの観点：関係者からみた質，リーダシップ，プロセス志向，対話による知の創造，全体最適，連携・協力関係，公正原則

2-2 プロセスのメンタル・モデルを形成する。
〇Problem Based Learningによる経営シミュレータを使った因果モデルの構築
〇組織の経営や運営を想定した，経営者と実務者の見方や考え方の違いを体感

2-3 システムのロジック・モデルを形成する。
〇部分最適から全体最適のマネジメントを通した論理モデルの構築
〇二者択一を両立に変える対立ジレンマの解消クラウドの思考法

2-4 Scenario Planningによる組織マネジメントを理解する。
〇MBA で行われているケースメソッドによるブレーン・ストーミング
〇ボトムアップ型チームとトップダウン型チームの比較分析

2-5 Strategic Planningによる戦略マネジメントを理解する。
〇Project Based Learning による経営理念と施策方針の構築
〇ビジネスモデルの企画と評価，ナレッジマネジメントの効用

2-6 本講義で得た学修成果を共有する。

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力(60%)，講義への参画や態度(40%)

教科書，参考書，参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

講義のなかで示す。

連絡先 (Contact Address)

教養教育推進室 栗本英和
kuri(at-mark)info.human.nagoya-u.ac.jp
at-mark を@ にしてください。

連絡事項 (Notes)

体験型講義は，教養教育推進室が社会人からのニーズを実際に調査し，社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして，担当講師，受講生，修了生が協働して開発を進めています。
想像力を醸成し，考想と協調を促進する場である「エース・ラボS」で実施するため，収容数に限りがあります。

※受講生の要望により，10月～11月の土曜日に開講を予定しています。

※アドバンスコースとして，体験型講義3「チーム・ビルディング」で綜合力を培い，体験型講義4「エンプロイアビリティ」で博士後期に繋がる実践力を身につけます。

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	月	5

科目名 (Course Title) 体験型講義「エンプロイアビリティ」
担当教員 (Instructor) 河野 廉, 森 典華, 船津静代, 栗本英和
(協力:玉井克幸ﾘｻｰﾁｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀｰ)

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)
基礎段階として, 体験型講義1「リーダシップ」, 体験型講義2「マネジメント」
実践段階として, 体験型講義3「チーム・ビルディング」

目的と目標 (Course Objective)
体験型講義は, 研究分野の枠組を超えて求められる, リーダシップ, マネジメント, チーム・ビルディング等に関する基本概念を, 体験を通して会得すると同時に, 事例分析や比較分析を通して, その基本知識を体系的に学修することを目的とする。
本講義は, 体験型講義のアドバンスコースとして, 自らのキャリア・ライフを考え, 多彩なキャリア・パスの中から自分に適した資質・能力を形成する糸口を掴む。また, 集団研修を通じた自己理解により, 個々の能力・目的・環境の棚卸しを行い, 大学や研究機関を含めた各界の諸先輩とのキャリアに関する面談体験と成果発表を通して, チームによるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を鍛える。

内容と計画 (Course Content)
講義は『座学(グループ研修)』と『グループでのインタビュー』という形で進めます。『座学』では、自らの自己理解を皮切りに、グループ研修を通じて、個々の能力・目的・環境の棚卸しを行います。『インタビュー』では、実際に産業界、大学等の先生にキャリアに関するインタビューを行います。インタビュー内容については、各グループが発表を行うことにより、異分野のグループからチームへの変化を体験すると共に、プレゼンテーション力を養います。また、講義参加者全員で発表内容を相互理解することにより、自らのキャリアパスへの落とし込みを行います。

1.キャリア形成の必要性—オリエンテーション
『キャリアデザイン論』の進め方:自己理解から環境理解へ
2.インタビューのための基礎的スキル
チーム作り、インタビューの進め方、テーマ決定、ビジネスマナー(ロールプレイ)、取材会議など
3.自己理解の醸成－自己分析をきっかけに自己特性をつかむ :自己理解①
Myers-Briggs Type Indicator による自己理解のための分析と自己特性
4.研究者になる為のスキルと準備 :環境理解②
5.ファイナンシャルプラン－ライフプランに即した資金計画 :環境理解③
6. Workの理解と他者評価
7.インタビュー発表と掘り下げ1
2チームの各20分の発表とフィードバック
8.インタビュー発表と掘り下げ2
2チームの各20分の発表とフィードバック
9.インタビュー発表と掘り下げ3
2チームの各20分の発表とフィードバック
10.キャリアデベロップメント :自己理解④
自らのキャリアプランを考える
11.産業界・学会人との総合討論 キャリア形成に必要な姿勢や心構えを身につけます。

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)
課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力(60%), 講義への参画や態度(40%)
詳細は講義で示す。

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)
講義のなかで示す。

連絡先 (Contact Address)

連絡事項 (Notes)
本講義は社会貢献人材育成本部・ビジネス人材育成センター, リサーチ・アドミニストレータ(URA) 室, 教養教育推進室との協働により, 博士後期課程に注目した, 実効性あるプログラムの開発を目指しています。体験型講義のアドバンスコースとして, 体験型講義3「チーム・ビルディング」では綜合力を, 体験型講義4「エンプロイアビリティ」では後期課程で求められる実践力を培います。

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	火	2
科目名 (Course Title) 担当教員 (Instructor)	Career and Life Development Ⅰ, Ⅱ Go YOSHIDA		

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

目的と目標 (Course Objective)

Desired Learning Outcomes:
1. Understanding the current labor market and the professional work environment
2. Ability to choose a career path after university
3. Developing effective self-development and self-management skills
4. Developing effective interpersonal skills

Some of the Topics Covered:
The Macro Labor Market
Is This the Right Job for Me?
What is the Good Life?
Decision Making
Control and Responsibility
Interpersonal Communication
Problem Solving

内容と計画 (Course Content)

After departing the hallowed halls of university, for most students, the working world awaits. There and in the greater adult world, a different set of skills are needed to succeed. This 'pre-working world' class is designed for students to learn, through theory and practice, some of the pertinent skills needed, while at the same time gaining a better understanding of the current labor market and in particular a few companies here in Japan (through a trip to Tokyo). The ultimate goal of this class is to better prepare students for life after university.

My classes go beyond the 'academics' and are designed to develop life skills—skills needed in life regardless of major, profession, or aspiration—by stimulating both mind and heart. This takes shape in the form of a four-way approach to teaching—through class time, assignments, individual meetings, and through the web. Through these classes, engaged students will be better prepared for life after university, through the transformation of the mind.

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

Written Assignments 40%
Final Project 60%

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

1. Arbinger Institute, Leadership and Self-Deception: Getting Out of the Box (Berrett-Koehler; January 2010).
2. Christensen, Clayton, Allworth, James, and Dillon, Karen, How Will You Measure Your Life? (Harper Business; May 2012).

連絡先 (Contact Address)

go.yoshida@d.mbox.nagoya-u.ac.jp

連絡事項 (Notes)

This class, taught in English, is also open to select undergraduate students. Contact the professor if you are interested.

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	火	2

科目名 (Course Title) 藝術リテラシー(絵画論Ⅱ)
担当教員 (Instructor) 小林 英樹

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)
本授業は、理論系の西洋美術史(通史)ではない。美術に関心がある方ならすべてOK。

目的と目標 (Course Objective)
絵画は造形的表現でありながら、象徴、寓意など言語的要素も有する。さらに絵画の来歴など様々な要素が付随し、造形的要素がぼかされたり不問にされたりする。本授業では、造形的要素にスポットを当て、絵画を深く感じ取る能力を養うことを主目的とする。また、色彩に対する繊細な感覚と個性を養成するため、色鉛筆(赤・青・黄)を使い、課題(例、「質の異なる三つの物質」「好きな曲」など)を色彩表現させる。最終的目的は、豊かな感性の構築とどんな名画にも余裕を持って向き合える気持ちの獲得にある。

内容と計画 (Course Content)
難解、窮屈ではなく、楽しみながら気づいたら実力がついている。
プロジェクターを通しての画像を使用しながら古今の絵画(主に西洋絵画)と向かい合っていく。絵画にまつわる諸々の情報などを覚えてもらうタイプの授業ではなく、可能な限り純粋に造形的要素に的を絞り絵画を鑑賞し、絵画の深い理解を目指す。絵画を表層の色彩が作り出すフォルムに限定せず、キャンヴァス、膠塗り、地塗りなどにも目を向け、絵画を構造的にとらえたりもする。「絵画論2」では、バロック以降、ロココ、新古典主義、ロマン、バルビゾン、印象派、後期印象派、ムンク、フォーヴとキューヴ、シュールレアリズム、ポロック、デュシャンなどを扱う。
授業を講義、解説一色にせず、参加学生にも主体的に関わってもらう。色彩演習、色鉛筆(赤・青・黄)でどこまで色を出せるのか、その可能性に挑戦する。無限の色彩で与えられた課題をこなしていくうちにその威力に驚くだろう。美術を専門に学ぶ愛知県立芸大の油画の学生、ごく普通の学生が受講した前任校の北海学園大学の一般教養の芸術論でもその効果はいかんなく発揮された。以前は画材としては認められていなかった色鉛筆を、近年のパソコンプリンターの淡いインキの色の混色で無限の色ができることから、見直し、採用している。携帯も簡単、手も汚れずに、自らの手で素晴らしい発見を体験できる。

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)
(1)後期一回の鑑賞に関するレポートを課題に応えるかたちで提出。
(2)色彩の実習(自分の気に入った課題二課題を提出)。
(1)(2)の総合で評価する。6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

連絡先 (Contact Address)

連絡事項 (Notes)
赤、青、黄、三色の色鉛筆を用意。メーカーはどこのものでもよい。あえて推薦するなら、ファーバーカステル、ステッドラーのドイツ製品がよい。100円ショップスなどに置いている顔料が少なく蝋が多い廉価なものは不適切である。また、赤は朱が勝っていない濃いもの、黄は濃いものよりレモン色っぽいものの方がよい。青は、明るい水色でもなく濃紺でもない、その中位の青がよい。セルリアンブルー、または、コバルトブルーに近ければいい。後期から受講する学生は、最初の授業で説明するので、購入はその後でもよい。

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	月	5

科目名 (Course Title) 藝術リテラシー(音楽Ⅱ)
担当教員 (Instructor) 小林 聡

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

基本的な楽譜の読み方(義務教育レベル)がわかること。和音(コード)など西洋音楽の骨格となる簡単な理論を理解しているとなおよい。

目的と目標 (Course Objective)

本授業では、中世・ルネサンスの音楽から現代音楽や現代のポップ・ミュージックまでの各時代における興味深い作曲家や音楽作品等について作曲法・楽器法・管弦楽法の観点から分析し、演奏技術と作曲技術の変遷・発達を考える。

内容と計画 (Course Content)

第1回 ルネサンス時代の鍵盤音楽
第2回 バロック時代の音楽 バッハとその周辺
第3回 ロココ時代の音楽 フランスとイタリアの音楽を中心に
第4回 モーツァルトの交響曲とピアノ作品
第5回 ベートーヴェン交響曲第5番
第6回 ショパンピアノ協奏曲第1番 和声とピアノピアニズムを中心に
第7回 シューマンのピアノ作品 性格的小品とピアノソナタ
第8回 シューマンとグリーグのピアノ協奏曲
第9回 ロシアの3大ピアノ協奏曲
第10回 ラヴェルの管弦楽法
第11回 20世紀後半におけるフランスのポップ・ミュージック
第12回 ペンデレツキの音楽 交響曲1番とヒロシマを中心に
第13回 ユッカ・ティエンスーの音楽 MXPZKLを中心に
第14回 現代日本の協奏曲
第15回 楽器の表現力

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

出席、授業中に行う課題、提出レポートを総合的に評価する。
6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

教科書
特になし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書
対位法 長谷川良夫著 音楽之友社
楽式論 石桁真礼生著 音楽之友社
総合和声 実技・分析・原理 島岡譲著 音楽之友社
Stylistic Harmony Work Book Anna Butterworth著 Oxford University Press
Inventing Finnish Music Kimmo Korhonen Finnish Music Information Centre
A History of the Concerto Michael Thomas Roeder著 Amadeus Press
Orchestration Walter Piston著 W.W.Norton & Company

連絡先 (Contact Address)

連絡事項 (Notes)

音楽作品を鑑賞するさいには、実際のコンサートで聴いているつもりでのぞんでください。また、授業中に音楽の断片を書く実習も行ないたいと思っていますので、五線紙も用意してください。
後期は、前期で概観した音楽史の流れを踏まえながら、今まであまり顧みられなかった作曲家や作品も含め、各時代における興味深い作曲家や音楽作品等について作曲法・楽器法・管弦楽法の観点から分析したいと思います。

年度（西暦） （Year）	開講期 （Term）	曜日 （Day）	時限 （Period）
2014年度	後期	木	５

科目名 (Course Title) 藝術リテラシー（レクチャーコンサートⅡ）
担当教員 (Instructor) 白石朝子、深堀彩香

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

音楽的な能力・経験等は問わないが、音楽を単に聴いて楽しむだけでなく、学問的にも理解することへの意欲が求められる。

目的と目標 (Course Objective)

愛知県立芸術大学博士課程の学生および修了生である、現役の演奏家が講師を務める。授業では、講師による演奏を交えながら、クラシック音楽を通史的に学び、時代や作曲家による音楽作品の違いを感じ取る。

内容と計画 (Course Content)

「ピアノ音楽史」（担当　白石）　「キリスト教音楽史」（担当　深堀）
講師プロフィール…白石朝子（愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了、ピアノ）
深堀彩香（同大学院音楽研究科博士後期課程2年、音楽学）

なお、この授業は、愛知県立芸術大学と名古屋大学の大学間連携によって、井上さつき（愛知県立芸術大学音楽学部教授）と藤井たぎる（名古屋大学国際言語文化研究科教授）の監修のもとに開講されます。
「ピアノ音楽史(全8回)」（担当　白石）
1.　ピアノ音楽の様式の変遷を、時代背景や社会文化の解説と、作品の実演を交えながら、時代を追って総合的に講義する。
・ バロックのクラヴィーア作品（ク―プラン、スカルラッティ、バッハなど）
・ 古典派のピアノ音楽　（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）
・ 19世紀のピアノ音楽　（ショパン、リストなど）
・ 近現代のピアノ音楽　（ドビュッシー、ラヴェルなど）
・ 日本人とピアノ音楽　（松平頼則、大澤壽人など）
2.　調律師や弦楽器奏者、管楽器奏者をゲストに迎え、ピアノの構造や室内楽作品についても学ぶ。
「キリスト教音楽史(全7回)」（担当　深堀）
1.　西洋音楽の発展に大きな影響を与えたキリスト教音楽の変遷を、音源や映像、当時の楽譜等を使用しながら、時代を追って学ぶ。
・中世・ルネサンスの教会音楽
・バロックの教会音楽
・古典派以後の教会音楽
2.　授業では主に、単旋律聖歌、記譜法、ミサ曲、コラール、器楽作品等について学ぶ。適宜、ゲストを迎えて実演し、理解を深める。

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

学期末にレポートを課す。出席状況、及び、毎回授業で配布するコメントカードで総合的に評価する。
6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。

教科書，参考書，参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

教科書
授業内でプリントを配布する。
参考書
久保田慶一ほか『はじめての音楽史――古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社、2009年。
志田英泉子編著『ラテン語宗教音楽キーワード事典』春秋社、2013年。
ハーパー、ジョン『中世キリスト教の典礼と音楽』佐々木勉・那須輝彦訳、教文館、2010年。
その他、授業内で適宜紹介する。

連絡先 (Contact Address)

asakoro1983@yahoo.co.jp（白石）　a_piacere_af@kne.biglobe.ne.jp（深堀）

連絡事項 (Notes)

総合大学の学生にとって、クラシック音楽を聞いたり演奏したりする機会はそれほど珍しくないと思いますが、生の演奏を耳にしながら音楽の歴史を学ぶ、という経験は初めてではないでしょうか。この授業では、五感を使ってクラシック音楽に触れ、それが社会の中でどのように変化してきたかを学ぶことで、皆さんが音楽文化に一層の興味をもつきっかけとなればいいと思っています。後期は、「ピアノ音楽史」と「キリスト教音楽史」をテーマに講義を行います。

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	火	3

科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・ライティング)Ⅱ
担当教員 (Instructor) 賴 偉寧 Paul W. L. Lai

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

(1)Graduate students who are able to take classes, and communicate, in English.
(2)Preference will be given to those who are planning to submit abstracts to international conferences or journals.

目的と目標 (Course Objective)

The two-semester graduate course has been developed since 2008 based on a new teaching method that integrates the training of logical thinking skills into the training of academic writing. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper for publication at a high international level. In the spring semester students will mainly learn how to develop a preliminary thesis statement (main research idea) for their respective research, and a logical argument for the thesis statement. In the autumn semester students will mainly learn how to incorporate the thesis statement and logical argument into an abstract, introduction, and learn how to develop a counterargument or advanced argument. After successfully completing the entire course, the students should be in a good position to complete and send their papers for publication. Those who succeed in having at least one English abstract accepted for publication during the course might be employed as a teaching assistant of Mei-Writing.

内容と計画 (Course Content)

The specific goals in the 2nd semester are to help the students (i) write a high quality abstract and introduction for their research, and (ii) strengthen the logical argument developed in the 1st semester by developing a counter-argument. The semester will cover the following lessons:

Lesson 1: Reviews on thesis statement and logical argument.
Lesson 2: How to write a high-quality abstract.
Lesson 3: Student presentation on abstract.
Lesson 4: Student presentation on abstract.
Lesson 5: Student presentation on abstract.
Lesson 6: How to write a high-quality introduction.
Lesson 7: Student presentation on introduction.
Lesson 8: Student presentation on introduction.
Lesson 9: Student presentation on introduction.
Lesson 10: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 1.
Lesson 11: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 2.
Lesson 12: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 3.
Lesson 13: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 4.
Lesson 14: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 5.
Lesson 15: Review, reflection, and course evaluation.

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

Students who need the course credits are required to meet the following conditions:
(1)Attendance must be over 80%
(2)Two oral presentations ((i) abstract, (ii) introduction)

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

The course instructor has developed a series of course materials, including (i) step-by-step guide on how to build a thesis statement, (ii) step-by-step guide on how to build a logical argument, (iii) template on how to write a high quality abstract, (iv) template on how to write a high quality introduction, etc.
All these materials are free, and will be available for download at the course web site.

連絡先 (Contact Address)

meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

連絡事項 (Notes)

(1) If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, explaining why you want to take this course. Due to the high demand of enrollment request for this course, you are advised to send the email as early as possible, preferably by September 30, 2014.
(2)Whether or not you are selected to take this course, please attend the first lesson.
(3)The first lesson of the course will commence on October 7, 2014.

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	水	4

科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・ライティング)Ⅱ
担当教員 (Instructor) Chad Nilep

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)
The course is open to graduate students in any field. You must be able to communicate effectively in English.

目的と目標 (Course Objective)
Writing practice further develops skills of paraphrase, synthesis, and critical evaluation. Students will locate, read, and evaluate a recently published book in their own field. Each student will prepare an oral critique and a written review.

内容と計画 (Course Content)
Weekly homework will develop writing skills such as logical argumentation, paraphrase and synthesis, and coherence in prose writing. Students will also discuss thesis writing as a project, and how to re-write thesis chapters as journal articles.
Students will select a recently published book relevant to their thesis or graduate studies. They will read and evaluate the book, give an oral presentation on its content, and write a book review. At the end of the course, students are expected to try to publish this review in a journal in their own field.

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)
Written review of a recently published book in the student's major field (40%),
one oral presentation (20%),
plus participation and attendance (40%)

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)
none

連絡先 (Contact Address)
国際言語文化研究棟409号
Nilep@ilas. nagoya－u. ac. jp

連絡事項 (Notes)
Enrollment is limited to 20 students.

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	水	3

科目名 (Course Title) ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅱ
担当教員 (Instructor) Markus RUDE

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

Studierende in Master- oder Doktorkursen, Wissenschaftler und Lehrende, auch deutsche Muttersprachler. Studierende aus Bachelorkursen sind als Gasthoerer ebenfalls willkommen, falls noch Plaetze verfuegbar sind (erfahrungsgemaess moeglich).

目的と目標 (Course Objective)

Teilnehmende bei der Produktion akademischer Texte zu unterstuetzen, und zwar durch die beratende Begleitung durch ein konkretes Schreibprojekt. Ein weiteres Ziel ist das Ueben akademischer Praesentation und Diskussion in lebhaften Gespraechen. Ein uebergeordnetes Ziel des Kurses ist es, die Freude an akademischem Schreiben, an akademischer Kommunikation zu wecken und zu staerken.

内容と計画 (Course Content)

Zu Beginn des Kurses geht es um die Festlegung eines konkreten Schreibprojekts und um die Erarbeitung eines realistischen Zeitplans. Idealerweise steht am Ende des Kurses eine Veroeffentlichung, die ein wissenschaftlicher Aufsatz in einer Zeitschrift, aber auch eine Buchbesprechung oder ein Vortrag auf einer Tagung sein kann.

Wesentliche methodische Bestandteile sind sowohl das regelmaessige Schreiben als auch das Lesen von Textbuchteilen und von Textprodukten anderer Teilnehmender. Dazu ist teilweise auch der eigene Laptop mitzubringen.

Kurzpraesentationen und Diskussionen werden den schriftlichen Schwerpunkt ergaenzen, denn akademische Kommunikation braucht Schriftlichkeit und Mündlichkeit. Gezielte und knappe sprachliche Formulierungen und Sachbezogenheit haben hierbei Prioritaet vor sprachlicher Korrektheit, die bei Bedarf natuerlich auch thematisiert wird.

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

Anwesenheit (mindestens 60% sind fuer einen Schein erforderlich), aktive Teilnahme (40%), Textprodukte & Kurzpraesentationen (60%).

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

Textbuch (fakultativ):
Schnur, Harald: Schreiben. Eine lebensnahe Anleitung fuer die Geistes- und Sozialwissenschaftler. VS-Verlag.
Fuer Natur- und Ingenieur-Wissenschaftler alternativ, ebenfalls fakultativ (leider teurer):
Ebel, Hans F. & Bliefert, Claus: Bachelor-, Master- und Doktorarbeit. Anleitungen fuer den naturwissenschaftlich-technischen Nachwuchs. Wiley-VCH.
Sonstige Materialien: Kopien, Files per Internet.

連絡先 (Contact Address)

meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

連絡事項 (Notes)

Der Kurs ist auf Deutsch, aber das Schreibprojekt und Praesentationen koennen – nach Ruecksprache – auch auf Englisch sein. Weitere Fragen werden gerne beantwortet.

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	月	4

科目名 (Course Title) フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅱ
担当教員 (Instructor) BAUMERT Nicolas

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

S'assurer de la validité d'une inscription universitaire et avoir un projet de recherche sur lequel travailler.

目的と目標 (Course Objective)

Le but de ce cours est d'aider les étudiants à développer les bases de l'écriture académique en français. L'approche est multidisciplinaire. Il s'agit d'apprendre à rédiger un texte clair et convaincant visant à la publication d'une première contribution scientifique. A la fin du cours, les étudiants seront capables d'écrire en français au moins un résumé ou un projet de recherche.

内容と計画 (Course Content)

Le cours propose des exposés méthodologiques, des exercices et des ateliers d'écriture. Il s'organise en 3 parties.
(1)Introduction aux règles de la rédaction en français et à ses principales difficultés (formulation d'une thèse ou d'une problématique, plans,…).
(2)Analyse critique de textes scientifiques (articles, comptes-rendus d'ouvrages,…)
(3)Travail de rédaction de la part des étudiants à partir de leurs propres recherches. Le choix du travail final de rédaction peut être choisi en fonction des besoins de chacun (par exemple : candidatures à des bourses, résumé en français d'un mémoire de maitrise ou d'une thèse, résumé en français d'un article en japonais).

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

Présence et participation 40%
Travail de rédaction 60%

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

教科書Le matériel de cours sera distribué sous forme de photocopies.
参考書Un dictionnaire est recommandé.

連絡先 (Contact Address)

meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, baumert@ilas.nagoya-u.ac.jp

連絡事項 (Notes)

Se référer aux instructions générales des cours d'Academic Writing pour les dates de début des cours et les salles. Il n'est pas nécessaire d'avoir suivi le cours "フランス語Academic Writing I" pour s'inscrire. Le statut d'auditeur libre est également possible.

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	月	4

科目名 (Course Title) 中国語(アカデミック・ライティング)Ⅱ
担当教員 (Instructor) 盧 建

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

不分国籍，不分专业，凡想培养汉语思维、提高汉语论文写作技巧以及发表技巧的学生均可参加。最好具有一定的用汉语发表见解以及参加讨论的能力。

目的と目標 (Course Objective)

这门课的主要目标是培养学生中文学术论文的写作能力。我们将从学生的实际出发，通过课程的系统训练，逐步引导学生建立汉语思维，并掌握汉语的语言习惯以及论文的写作技巧，以致达到能用中文发表论文的水平。课程计划分为前、后两个阶段，第一阶段是准备阶段，以培养学生的“汉语感觉”为目的，重点语言习惯的培养和思维能力的训练；第二阶段是实践阶段，以写作技巧为主线进行具体的指导与实践，争取在课程结束时，帮助学生完成一篇“名副其实”的中文小论文。

内容と計画 (Course Content)

前期阶段：目的是为写论文作思维与语言上的准备。主要内容包括：（1）学术论文的基础知识储备（如：介绍各专业学术论文的特征、论文的写作流程、文章构成、论题选择等等）；（2）通过阅读优秀论文，介绍汉语学术论文的整体特征、格式、规范和要求；（3）介绍汉语的思维与语言习惯，从中、日、英对比的角度出发，分析作为一篇学术论文，中文篇章表现上的“约定俗成”以及语法规则和惯用表现的理据；（4）翻译练习，比较直接用汉语写成的论文和以翻译为中介手段而完成的中文论文二者之间的区别；（5）同源译文的分析对比；（6）通过母语进行逻辑思辨能力的训练；（7）如何确定选题；（8）如何撰写研究计划

后期阶段：目的是以写作实践为主，一步步引导学生完成一篇小论文的写作。主要内容包括：（1）如何制定一个清晰、明确的中文标题；（2）如何简明扼要地概括论文中心论点；（3）如何建立论文的论证结构，并冠以明确的中文表述；（4）如何根据论题确定研究方法；（5）如何撰写论文提要（abstract）；（6）如何撰写“前言”和“结语”；（7）行文技巧（比如参考文献的文体、论据的筛选、“引用”的表述、汉语语料库以及资料的收集方

※以上内容计划以学年为单位完成，分为前期课程和后期课程，不过具体实施上将根据学生的选修情况做时间及内容上的调整，以期使每位学生能学以致用。

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

（1）出席次数在总课次的2／3以上；
（2）课堂表现

教科書，参考書，参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

随堂布置

連絡先 (Contact Address)

lujian@ilas.nagoya-u.ac.jp
lujian55578@hotmail.com

連絡事項 (Notes)

这是一个学习的课堂，也是大家练习学会发表以及交流的场所。课上学生们从自己的研究出发，互相启发，互相帮助，创设了一个很好的研究氛围。汉语非母语的学生，除了论文写作训练以外，还可以提高汉语的语言表达能力；中国留学生可以训练逻辑思辨能力以及提高论文的写作技巧。每周除了正常授课外，还有一节个别辅导时间，有需要的学生可以利用这个时间商谈论文或练习学会发表。有时候也会开研究发表会，供大家学术交流。总之，它就像一个“汉语之家”，欢迎更多的同学加入到我们的行列中。

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	木	3

科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅱ
担当教員 (Instructor) Mark Weeks

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

Graduate students and researchers who are able to take classes and communicate functionally in English are eligible. Participation in Presentation I is NOT required in order to enter this course.

目的と目標 (Course Objective)

This course is directed towards graduate students and researchers in all fields and has the following practical goals:
1. to raise your drafting and practical delivery skills to a level where your presentations (or poster sessions) at an international level can be highly effective, low stress, even enjoyable.
2. to produce logically persuasive presentation abstracts, scripts and slides related to your research area that you can use as models for future international "real world" presentations.
3. to raise your confidence in general international communication, especially in academic contexts.

内容と計画 (Course Content)

Classes are conducted in English in an informal atmosphere. The emphasis is on student group and class discussion, presentation practice and constructive feedback. Some drafting of abstracts and scripts may be done during class time for close consultation and feedback.
While emphasizing practice, classes are devoted to the following.
・Introduction: reviewing fundamentals of academic presentations
・Arguments and counterarguments in presentations
・Writing successful abstracts/proposals
・Presenting data effectively
・Effective language use
・Poster session techniques
・Advanced visual design for clarity and impact
・Advanced strategies for Q and A sessions
・Socializing internationally in English
＊5-10 minutes is spent in each class practicing the common "small talk" of conferences.
Students will be asked to deliver two presentations using slide software or other presentation aids in order to develop skills in presenting and handling question time. Detailed feedback will be given for further improvement.

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

Participation 70% Two presentations 30%
＊Students are required to attend a minimum of 10 lessons in order to receive credits for the course.

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

All materials are prepared and provided by Mark. Electronic copies of key materials will be sent to students throughout the course. While some materials are original products of the instructor, the following sources are also used:
1. Adrian Wallwork, English for Presentations at International Conferences, New York: Springer, 2010.
2. Adrian Wallwork, English for Academic Correspondence and Socializing, New York, Springer, 2011.
3. Michael Alley, The Craft of Scientific Presentations, New York: Springer, 2003.
4. Garr Reynolds, Presentation Zen, Berkeley (CA): New Riders, 2008.
5. Garr Reynolds, Presentation Zen Design, Berkeley (CA): New Riders, 2010.

参考書
It will be helpful to bring a dictionary for using English to classes.
注意事項
The Spring semester course "Presentation I" is not a prerequisite for taking this course.

連絡先 (Contact Address) weeks@lang.nagoya-u.ac.jp

連絡事項 (Notes)

Academic presentations are an important, useful, even enjoyable opportunity to disseminate ideas, test theories and establish contact with other researchers. With that in mind, this course seeks to develop rigorous presentation structure, effective performance, and a greater awareness of the interactive nature of presentations in a supportive informal setting.The instructor will also provide practical support and advice for participants preparing to give academic presentations outside the course.
＊The Spring semester course "Presentation I" is not a prerequisite for taking this course.

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2014年度	後期	月	2

科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅱ
担当教員 (Instructor) David Toohey

履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)

This class is open to anyone who is interested in presenting projects that they are working on at academic conferences and can communicate at an academic level in spoken and written English. You may be from any academic discipline, though it is required that you have projects to present.

目的と目標 (Course Objective)

This course is designed to improve students academic presentation skills. It incorporates students presentations of academic projects that they have already started and plan to present in other classes. These presentations are designed for students to use logical thinking skills to prioritize what information to present, how to present it, and how to answer audience questions. During these presentations, non-presenting students will be asked to evaluate the presenters. This achieves two goals: 1) for the presenters to get feedback from a variety of points of views; and 2) for students to consider which presentation styles they enjoy and what effective things they can incorporate into their own presentations.

内容と計画 (Course Content)

This course uses lectures on logical presentation strategy which students incorporating into their own presentations. Presentations and class participation (evaluation, questions, etc.) are emphasized. Through multiple presentations you will gain confidence and experience necessary to present at International conferences.

Lesson 1: Course overview and lecture on academic presentations
Lesson 2: Creating effective handouts: logically prioritizing information to include and exclude
Lesson 3: Presentations with papers using handouts
Lesson 4: Presentations with papers using handouts
Lesson 5: Presentations with papers using handouts
Lesson 6: Presentations with papers using handouts
Lesson 7: Logical summaries for PowerPoint presentations (What to include, what grammar to use)
Lesson 8: Power Point Slide Presentations
Lesson 9: Power Point Slide Presentations
Lesson 10: Power Point Slide Presentations
Lesson 11: Power Point Slide Presentations
Lesson 12: Using audio and visual materials to reinforce arguments and evidence
Lesson 13: Short audio and visual presentations with student evaluations
Lesson 14: Effectively answering questions, what to expect and the logic of what and when to answer.
Lesson 15: Mock question and answer sessions about student presentations

成績評価の方法と基準 (Grading Basis)

Class attendance participation 60%
Assignment # 1 (Presentation with Handouts) 15%; Assignment #2 (PowerPoint Presentation) 15%
Assignment # 3 (Short Audio and Visual Presentations) 10%.

教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)

All reading materials are prepared by David (the teacher) and given to students in the class. It is required that students bring an appropriate number of handouts to class when they present.
Students should bring English dictionaries to all classes.

連絡先 (Contact Address)

meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

連絡事項 (Notes)

You need to attend at least 10 classes to pass this class.
Also, be prepared to accept constructive criticism of your presentations; this is very important for being prepared to attend conferences and publishing.
It is important that you give honest, constructive feedback to other students, even if they are from another academic disciplines that you are not familiar with.

リーディング大学院のコースワークに入っているもの

平成 26 年 10 月1日現在

プログラム名	PhD プロフェッショナル登龍門	フロンティア宇宙開拓リーダー養成	グリーン自然科学国際教育研究	「ウエルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成	実世界データ循環学リーダー人材養成	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム
体験型講義「リーダーシップ」	○	○	○	○	○	
体験型講義「チーム・ビルディング」	○	○	○	○	○	
体験型講義「マネジメント」	○	○	○		○	
体験型講義「エンプロイアビリティ」	○	○	○		○	
Relationships and Communication Ⅰ(Seminar)	○	○	○	○		○
Relationships and Communication Ⅱ(Seminar)	○	○	○	○		○
Career and Life Development Ⅰ	○	○	○			○
Career and Life Development Ⅱ	○	○	○			○
Future leaders of Japan Ⅰ	○	○	○			
Future leaders of Japan Ⅱ	○	○	○			
藝術リテラシー(絵画論Ⅰ)		○				
藝術リテラシー(絵画論Ⅱ)		○				
藝術リテラシー(音楽Ⅰ)		○				
藝術リテラシー(音楽Ⅱ)		○				
藝術リテラシー(レクチャーコンサートⅠ)		○				
藝術リテラシー(レクチャーコンサートⅡ)		○				
大学教育論			○			
研究のビジュアルデザイン			○		○	
英語(アカデミック・ライティング)Ⅰ			○	○	○	
英語(アカデミック・ライティング)Ⅱ			○	○	○	
ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
中国語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
中国語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅰ			○	○	○	
英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅱ			○	○	○	

大学院共通科目とは

教養教育院では，平成 23 年度より「国際社会に通用する語学力を養成し，社会変化に対応し得る高度で知的な能力及び素養を備える人材の育成を図る」ことを目的として大学院共通科目を開講しており，平成 26年度後期においても，本冊子のとおり開講いたします。

大学院共通科目は，「博士課程教育リーディングプログラム」*に対応した特色のある講義内容となっており，多くの大学院生に受講していただきたいと考えております。

なお，修得した単位がどのように扱われるかは，各研究科の教務担当掛で確認してください。

*「博士課程教育リーディングプログラム」

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

名古屋大学教養教育院　教養教育推進室
TEL:052-789-4723　FAX:052-789-3527